

飛耳長目〈第19回〉開催概要

日 時	令和6年3月15日(金) 午前10時～午前11時30分
場 所	安曇野市役所本庁舎 共用会議室 307
テーマ	『「あづみ野の水・みどり・空気・土・山林」を維持・発展させるには』
参加者	上堀 市長と語る会 9名

農業・林業について

参加者 今日安曇野の農業や山林を地域一丸となって守るための取り組みをメインテーマに話をできればと思っている。農業や林業により田畑や山林が維持管理され、安曇野の豊かな水や空気、土や緑といった恩恵をそこに住む人全員が受けているが、このままでは維持していくことが難しい。これらをなにか支援できる体制づくりについて考えたい。安曇野市に住む人間は農家か非農家に関わらず多少なりとも農業に関わっており、まして食については誰もが避けて通ることができない話題である。戦後に農地改革が行われ、多くの農家が土地を購入し長期で返済しながら耕作に取り組むようになり、米の収穫量は増えていった。一方で昭和45年頃から減反政策や農産物を輸入が行われ、外食化により米の消費も減少し、買取価格も半減した。また大型化や営農化を進めてきたが、後継者不足が進んでいる。また、農業機械が高く、今使っている農業機械が壊れてしまったら農業を辞めるという話が周りでも多い。土地を貸すにしても条件が悪いところは借りてもらえず、耕作放棄地となってしまう。兼業で土日に農業をやる人は、気象条件によっては有給休暇を使って取り組んでいる。平日働き土日は農作業で潰れるとなると続けようとは思わなくなってしまう。今耕作している世代は「先祖から引き継いだ土地だから何とか守りたい」という思いで農業を続けているという人もいるが、どうしても割に合わず、次世代に引き継ぐ事は難しいのが現状。

また、安曇野の緑や水、空気、土地を守ることを考えた時に外せないのが山林である。現在樹木の直径が50cm～70cmの大きさになっていて、間伐や伐採が必要な状態である。このままでは二酸化炭素を取り込んで酸素を供給し、水を貯めこみ土砂災害を食い止めるなど山林の役割を果たせなくなる。植林した当時は例えば地区公民館を立てるためなど、後世のために共有財産として育ててきたが、今となっては素人では伐採することもできず放置されてしまっている。孫世代まで継続できるような農業や林業にしていけないと生活の土台が崩れてしまう。儲からない農林業を今後誰が継続してやっていくのかとても不安。農業者であるかそうでないかに関わらず、誰かがやってくれたものをただ買って享受するのではなく、皆で少しずつ力を出して維持していく必要がある。農業や林業によってきれいな緑、土、水、空気といったものが保たれ、恩恵が受けられているという意識がない人が多い。何もせずに恩恵を受けられるという意識でいて、当事者である農業・林業従事者は苦境に陥っているという状況のままでいいのか。

こういった問題を改善するために何かできることはないかと考えている。やはりまず国や県、市による経済的な支援が必要である。また米の収入だけでは成り立たない米農

家に対して個人からの直接金銭的な支援ができればいいと考える。金銭面以外にも、作業に対して労力面で支援し、土手やあぜの草刈、水の管理といったところに力を貸す制度を作れないか。行政で実現に向けて考えてもらえないか。協力してくれる人の募集やマッチング、保険への加入、圃場や作業場所への移動手段の確保、トイレや昼食場所、休憩場所の整備などといったことが必要になる。これらを整備したうえで基本的にはボランティアで、場合によっては有償という選択肢も含めて検討し、余暇や労力を少しずつ提供し、農林業をみんなで盛り立て多面的機能の充実を図れないかと考えている。

持続可能な農林業を目指し、緑豊かな大地、美味しい空気、水を次世代に渡していけるように一人一人が行動に移すときではないかということを考えている。こういったことについて今日出席の皆さんからもご意見をいただきたい。

参加者 現在の農業政策は弱者切り捨てで、担い手育成に力が偏りすぎているのではないかと感じる。担い手の人たちはある程度放っておいても経営を見極めて継続していつてくれると思う。だが山麓地帯などの条件の悪い所は、人が住んで耕作をしていかないといけないけれど割に合わないため荒廃農地になっていつている。荒廃農地になると有害鳥獣が発生したり災害が発生しやすくなったりと問題が生じる。合理主義に走りすぎず弱者に目を向けてほしい。もう一つ課題と感じるのが、多面的機能支払についてで、現在区ごとに組織されているが、例えば上堀区に住んでいて中堀区で耕作をしているような場合は組織に入らず恩恵を受けられない。上堀区では地区に住んでいなくても耕作地がある場合は対象にしているが、他の地区はそうではなく、対象になっていない人が多い気もするので見直しをしてもらえないか。また、多面的機能支払の中に共同化いう事業があるが、これは非農業者を取り込まないといけない制度で、区の役員などに進めてもらわないと農業者だけでは進められないので、区長会などでも PR してもらって地区全体での取り組みを進めてもらいたい。

参加者 米価格の頭打ちの原因は輸入米が入ってきたこと。また、一番の供給先は外食産業だが、そこで低価格での買取が行われるため値段が上がらない。国による買取もほぼない。こういった状況で収入が見合わないと続けようと思わない。自分と同世代で機械一式を所有しているところは自分が得た収入で機械を購入しているわけではなく、代々貯めてきたお金を切り崩して購入し、60代くらいまでは何とか続けていこうという状況で、自分の次の代のことは全く考えられない。戦後は一俵が4,000円くらいで役場職員の給料が月6,000円くらいで、バブルの頃でも2町歩（10アール20枚）あれば子ども一人を大学まで通わせるのに十分な収入があった。米の価格下落が激しく、収入がどうしても厳しい。その中でも農家の魅力や良さを若い世代や移住者の人たちにPRする必要がある。そういった人たちに休耕田など使える場所を案内していけばいいと思うのでそういった窓口を市役所で担ってほしい。休耕田は必ず増えてくるし、現在担い手になっている農家もいっぱいいて、良い田んぼがあっても大型農家が耕作してくれるかという難しい。小さな自治体ではすぐに解決できるか難しい問題だとは思いますが、どうサポートできるか考えてほしい。

参加者 自分は農地を所有しているが、農協に全て委託している。若い人で農業をやる人は増えていて、米では食っていけないので果樹や野菜、花きなど利益の出るものを耕作していくという発想でいる。ある農業法人では新卒や農業をやりたい人を雇い、耕作放棄地を使って事業に取り組んでいる。そういった取り組みを応援できればと思う。自分が委託している 30 代の農家の方は米を扱っておらず、果樹などいろいろ手広く手掛けていてちゃんと利益が出ているそうだ。そういった人たちを I ターンや U ターンでうまく呼び込むために、若い人たちに話を聞きながら方策を考えられればいいのではないかと考える。

市長 非常に難しい問題である。担い手となってきた農家もいっぱいはいになっていると大勢の皆さんから話を聞いている。今の世代が引退するとこのままでは後継者がおらず、どう後継者を育てるかが課題。自分が子どもの頃は兼業農家が多かったので農業がどういうものなのか触れる機会があったが、今の子どもたちは触れる機会があまりなく、田んぼや畑にも行っていないと思う。そこで現在、こども園の園庭の中に田んぼを作って一通り米を育てるということに取り組んでいる。地元農家の協力をいただきながら種もみの選定からおにぎりにして食べるころまで体験してもらっている。これは一例で、いろんな農家に行って農業に触れるということを推進している。

移住者への農業のあっせんには積極的に取り組んでいる。りんごやいちごといった果樹関係に関わる方が多い。やはり米だけでは難しく、別の仕事をしながらでないと生計が立てられない。農業は安曇野にとって非常に重要な問題で、北アルプスの前に田んぼや畑、堰があり、人の営みが見えるというのが他の地域にはない安曇野ならではの魅力。山がきれいなところはたくさんあるし田畑が広がっているところもあるが、その両方が見えるというのが一番いい所で、その人の営みが危機的な状況ということは把握している。移住して農業に携わる方については国の補助制度があり、農業系学校や先進農家で研修を受け新規就農を目指す人に対し 2 年間で 1 人 150 万円交付するといった制度を紹介している。また以前は農地付きの空き家があっても農家でないと農地は買えないという制度だったが、国の基準変更に合わせて農家以外でも農地付き空き家を買えるようにした。このように移住者が農地を持つことができるようにはなっている。ただ、農業の場合、収入は収穫時期にまとめて入る一方、お金と労力は年間通じて投入しなければいけないというのが大きなハードル。

いずれにしても大きな問題は国が農業についてどう考えるか、どう取り組むかということであり、一自治体だけでは解決することは難しい。国も担い手農家の育成や多面的機能支払など舵は切っているはずだがなかなか効果は出ない。食糧自給率が低いといいながら米の減反をやっているし輸入米が相当増えている。いろんな自治体が工夫して若い人を農業に呼び込む必要がある。

現在、安曇野の農産物を大都市や海外に売り込もうとプロモーションをしていて、農家の方とともに現地に行って販売などもしているが、かなり売れる。今はまだ運賃を市で負担しているので自立にはまだ工夫が必要。また安曇野ではこんなにたくさんの農作

物が採れるということを PR するために前菜からデザートまで全て安曇野産の食材で作る「安曇野フルコース」を一昨年から作っていて、これまでに和食、フレンチ、中華、イタリアンに取り組んだ。そのメニューを掲載したパンフレットもかなりの勢いではけているので、関心を持ってもらえていると思う。今特に白馬村にはインバウンドで人が大勢来ているので、それらを安曇野にも呼び込み、「安曇野はおいしいものが食べられる」ということを認識してもらい、帰りに立ち寄ってもらう流れを作れればと考えている。シンガポールではレストランや小売関係者に直接売り込みをした。

参加者 どんなものを売り込んだのか。

部 長 わさび、りんご、生そば、お酒などを持って行って現地の皆さんに食べてもらいプロモーションをした。ただ、競争が厳しくその中で販路を拡大するためには様々な工夫が必要。違う方向性のチャレンジも検討中である。

市 長 幸い JR 東日本の現地機関やジェトロ（日本貿易振興機構）、県の駐在員など協力してくれる機関がたくさんある。そういったところに相手方をを紹介してもらったり直接交渉に入ってもらったりしている。

参加者 台湾はどうか。

市 長 これまではあまり取り組んでいなかったが、今台湾から来る人が増えているので、まずは修学旅行で来てもらっていろんな物を食べてもらいリピーターになってもらう取り組みを今秋から仕掛けられたらと考えている。

部 長 難しい課題ではあるが国も後継者の育成に大きく補助を出していて、新たに就農する人には2年間で150万円を支給するということをしている。また米を作るような土地利用型農業をやる場合、トラクターなどが無いと仕事ができないが、機械を一通りそろえるとなると数千万円かかるのが当たり前なので、親元就農ですでにある機械を使いつつ段々規模を拡大していくという後継者には、なるべく支援するよう市独自の補助事業も用意している。ただ担い手の農家をどんどん増やすというのは難しく、頭打ちになっている。荒廃農地が増えていくことを防ぐために現在地域を回って地域計画を作っている。これは「将来的にこの土地が空いたら誰が引き継いで農業をするか」ということを大まかに決め、地域で共有するようにするもの。国が旗振り役となり日本中で実施することになっていて、安曇野市でも来年度進めようとしているので参画していただき、「こんな課題がある」ということをみんなで共有しながら同じ方向を向けたらと思っている。

参加者 大多数の非農家の方を巻き込まないといけない。資金については集める方法はあるが、課題になるのが人。恩恵を受ける人を巻き込んでいかないとうまくいかない。大変だとは思いますがそこに踏み込んで何とか考えてほしい。安曇野はいい所だというのが、このまま

では土台がくずれてしまう。

市 長 地域の人を巻き込んだ農業についてだが、今度の日曜日の朝に堰の清掃活動があって非農家も加わっている。何十年何百年と引き継がれてきたシステムがうまくいかなくなっている。どうやって対応していくか、考えなければいけない。

参加者 林業についても考えをお聞きしたい。山林を次世代にどう引き継いでいくか。自分自身もめったに山にはいかなくなってしまった。

市 長 林業も農業と同じ構造で、担い手不足と木材が高く売れないことが問題。

課 長 今週末の日曜日に財産区の総会をやるのでぜひ出てきてほしい。山の価値が低くなっているので、逆に境界について細かく言う人があまりおらず、資金さえあれば整備はしやすい。この4月から森林環境税を皆さんから徴収するようになるということで、そういった財源を使い、手が付けられない私有林の管理を進めていくことができると考えている。境界については堀金が一番進んでいて、生産森林組合を作る時に境をしっかりとしないといけないということで取り組んだと聞いている。それ以外のところは調査もしていない所もある。生産森林組合や法人は堀金にしかない。堀金の人たちが一生懸命取り組んだ結果。ただ、関係者だけでなく恩恵を受けている人にもうまく関わってもらう仕組みづくりができないかとは考えている。

参加者 安曇野という名前のブランド力がここ最近でかなり強くなっている。里山市も安曇野という名前に惹かれて人が来ている。それを活かして里山を守るといった取り組みに生かせないか。

課 長 里山再生計画「さとぷろ。」という取り組みをしているので、ぜひ参加して知恵を出してほしい。

市 長 高齢化とともに少子化が課題。子どもを産んだり育てたりということに対して手厚く支援したいと思っている。市長に就任してから18歳以下の医療費無料化、新生児の難病早期発見検査代の補助、市内子ども園の園庭芝生化取り組んだ。また、明科に自然保育特化型の認定こども園があるが、そういった自然保育に親しんできた子どもたちが小学校に上がってギャップを抱かないよう、明北小は住んでいる地域に関係なく通えるように令和7年度から特例措置をするよう動いている。ただこれも一自治体では難しく、いったん少子化になると元に戻すには60年かかると言われている。安曇野市は移住者が多く子育て世代の人数を何とか維持できているがやはり厳しい。子どもを育てるのは楽しいと思ってもらえるよう、子育て世帯の負担を軽減するために取り組みをしていきたい。

地域での支え合いについて

参加者 能登の震災を踏まえて改めて隣近所の絆が無くなってきていると感じている。これは行政にどうにかしてほしいということではなく、区としてできないか考えていることだが、上堀区に住む市職員や、生徒の皆さんに区に関わってもらえるような何か取り組みができたと思う。中学生になればある程度力仕事もできるし情報の収集などでもできると思う。

参加者 地域を支えていく基盤が必要でこの地域でも人的資源が眠っていると感じる。例えば防災や地震の話をするとう興味を持つ住民は多いが、どう対策していくかという話になると地域住民だけでは検討することが難しいし区長がまとめるというのも限界がある。そこで将来的に地域住民になる市職員や NPO 法人の人なども含めて集まって地域の課題を掘り起こしながらどう対処するか話し合えるような機会があるといいと思う。

また、地域の移動手段について、あづみんのるーとは使い勝手がいまひとつと感じている。堀金から穂高の綿半辺りまで短距離を移動したいという時、自分の車に乗せて行ってもいいという人は大勢いるので、隣近所で誘い合って乗り合わせる仕組みづくりを後押ししてもらえたらと思う。

参加者 子どもの安全のため通学路の安全確保に努めている。道路の除雪は市の委託業者がやってくれるが、歩道の除雪はされないの、近所の人ボランティアで除雪をしている。田んぼが1kmほど続く区間もあり、学校で除雪してくれるところもあるが、区の境など誰も除雪をしない箇所もあり、歩道が通れず車道を歩くことになってしまい危険。市で全部やるというのは酷だと思うので、PTA と調整したり、中堀区と上堀区で連絡を取り合って担当範囲を決めるなどできたら。人が減ってきているので、力を出し合って子どもが安全に過ごせる地域にし、外から新しく来る人に「堀金に来てよかった」と思ってもらえるようにしたい。

市長 歩道の除雪の話は実際今どんな状況になっているか。

部長 昔建設関係の部署にいたのでその時の話だが、市では基本的に歩道の除雪はしていない。大規模農道の歩道一部は委託業者が除雪することもあるが、それ以外の歩道は小型除雪機を貸し出して除雪をお願いしている。小型除雪機が不足しているということであれば市で予算化して貸し出すことができる。ただ機械を貸すだけなので、地区の皆さんでそれらを利用して除雪していただくようお願いしている。やはり隣の地区との連携をとっていただかないと、空白区間ができてしまう。自分の住む地区では育成会の役員で当番をやるとか、PTA のお父さんを巻き込んでやっている。そんなケースも参考にしていただければ。

参加者 自分もボランティアで除雪をするようにしているが、昔は親や近所の人協力しながら子どもが通る歩道の除雪をするのが一般的だったが、今はそうはいかない。声を

掛ければやってくれる人はいるが、その一步を踏み出すのに躊躇しているのではないか。

参加者 PTA の人が出てきてくれる年とそうでない年があって、出てきてもらえなければ結局区長やボランティアでやらなければいけない。雪を飛ばしたら飛ばしたで文句を言われたり、人の田んぼに泥を飛ばさないように気を使ったり、そんな風に悩みながら除雪しないといけない。

市長 行政が全てやることは不可能。

参加者 私も行政がすべてやることはできないと思う。

市長 雪かきと農業の話も共通するところがあって、昔は結といった組織があって自分の母親は田植えや稲刈りに出て行っていたし、自分の家の作業も手伝ってもらっていた。機械化が進んだことで結が消えてしまった。雪の量は減ってきているが、雪かきをする人も高齢化していて自分の家にかくので精一杯。

参加者 代表区長会だけでなく区長同士で話し合う機会を作り情報交換をしながら雪かきの分担箇所なんかを決めて行けばいい。また今上堀区では除雪機を 2 台お借りしているが、もう 1 台借りられると嬉しい。保守点検をしっかりとっているつもりでもたまにしか使わないのでとバッテリーが上がってしまう。できれば新しい機械が欲しい。

市長 機械はなんとかなる。それを使って雪かきをしてくれるかが問題。

市役所庁舎の改善点

参加者 市役所全館をフリーWi-Fi にしてほしい。窓口で打合せをしながらパソコンを使おうと思っても Wi-fi がつながらない。また庁内の照明が蛍光灯だが、2027 年に製造中止になり購入できなくなる。蛍光灯は LED と比べて電気代が非常に高いし、率先して LED にしないといけないのではないか。

市長 庁内のフリーWi-Fi を使える範囲を広げているが、すぐに全部という訳にはいかない。地域づくり課で繋がらないのは問題。窓口では繋がるようになったと聞いているので実態を確認する。

部長 窓口付近は Wi-fi がつながるように機械を配置している。